

# 明石海峡で海流発電実験

巨大な船も押し流す海流や潮流の力で、プロペラを回して発電する装置の開発に、兵庫県三木市のベンチャー企業「ノヴァエネルギー」が挑んでいる。すでに小型試作機で発電に成功し、4月にも、韓国企業などと共同で製作している実証装置の発電実験を明石海峡の潮流で行う。国内の大手重工業会社も興味を示しており、同社は「温暖化防止のためにも巨大なエネルギー



海流発電装置の模型と鈴木清美社長（兵庫県三木市で）＝守屋由子撮影

## 元船長設立ベンチャー企業

を秘める海に目を向けてほしい」と話している。

一等航海士として冷凍船の船長などを長く務めた鈴木社長が、1万トンの巨大船が流される海流の力をエネルギーに変えられないかと思いつけていた。風と違い、一定の速さと方向で流れる海流の性質に「地球が自転する限り、稼働率は100%」とし、2007年にノヴァエネルギーを設立した。

## 方向一定「稼働率100%」

08年2月には藻や漂流物が絡まないように設計した小型プロペラ（直径62センチ）の実験を明石海峡で行い、200キロの発電に成功。今年4月の実験では、韓国企業や韓国海洋大学などと、直径3メートルのプロペラ2基を備えた装置で20キロワットの発電を目指す。将来は直径16〜17メートルのプロペラ4基で、2000キロワットを生み出す大型装置を開発。500台連結した海上発電所ができれば、原発1基分に相当するという。海流発電は、国内の新エネルギー法に記載がないが、英国や韓国などが力を入れている。